



大阪の 社会福祉

2024年9月

832



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



話し合いを重ね地域の力に!



2・3面

東住吉区

地域懇談会で地域活動の現状・魅力を共有し、これからの考える

HB 熱中症にならないように、ポットに冷水を入れて持ち歩いている▼20年ほど前にオーストラリアのキャンプ場巡りをした時、スタッフの多くが、ペットボトルサイズのポットを持ち歩いていることに気づいた▼温かいコーヒーを入れているのだ。喫茶店もない野外で活動するのにこれは便利だと、メルボルンに戻るなり市場に飛んで行った▼雑貨屋さんの店先で、たくさん並んでいるうちの一つを買った。ホテルに帰って、ゆっくり説明書を読んでいたら、メイドインジャパンと書いてあって、大笑いをした。そのポットが暑い日本で、まだ活躍している▼もう一つ同じような体験をした。引越した家に古井戸があって、災害時に役立つと、埋めずに置いてある。とりあえずロープにバケツをつないで、自力で汲み上げようと、釣瓶用のバケツを探したが、近所で売っているとところがなかった▼田舎へ行けばあるだろうと、高知の知人に頼んで探してもらったら、大阪の道具屋筋から送られてきたという。私が直接道具屋筋に足を運べばよかった▼日本製のポットをメルボルンで買い、道具屋筋のバケツは高知を経由して私の元へやってきた。(石)

地域懇談会で地域活動の現状・魅力を共有し、これからを考える



地域役員・活動者が一堂に集まって開催

東住吉区の地域懇談会について、令和6年8月号（2・3面）で概要を紹介しましたが、今号では、区の中央部、長居公園の東側に位置する鷹合地域で実際に実施した様子を紹介します。



▲地域懇談会に参加した鷹合地域のみなさんと区社協職員

8月2日午後2時～4時、鷹合西会館に、各地域団体の会長や民生委員・児童委員、地域福祉サポーター、食事サービス・ふれあい喫茶等の活動者、同地域を担当する中野地域包括支援センター、区社協職員が集まりました。

この取組みは、地域住民と福祉専門職が顔の見える関係をつくり、話し合いの場を持つことで、地域の現状・ニーズから今後の活動を一緒に考える機会として、区内各地域で順次実施していきます。冒頭、鷹合地区社協会長の房本好治さんから「本日は鷹合の地域活動について話し合い、場の活性化とともに、みなさんのさらなるご活躍にもつながればいいなど思っているの、自由な意見を出してほしい」とあいさつがあり、開始しました。

地域の強みや特徴を把握

グループワークに先立ち、

区社協職員から見た鷹合地域の強み(素敵なところ)・特徴【地域アセスメント内容】

- 遠くまで外出が難しい方も、鷹合会館と鷹合西会館という2つの拠点があることで、より身近な場所で活動に参加することができる。
- 新たな活動者や次世代の担い手発掘のためにボランティア募集をおこなうなど、地域の中で活動者の輪・見守りの輪を広げている。
- 親子サロンやこどもの居場所では、幅広い世代の活動者が関わっており、地域全体で交流の場を盛りあげている。
- 居場所では、活動者の得意なことを活かしたり、新しくボッチャやパフォーマンスボランティアの依頼など、多様なプログラムを取り入れ、参加者が楽しめるよう工夫している。
- 活動者は参加者への気遣いや心配りを大事にしており、居心地よく安心できる居場所づくりを心がけている。また、参加者同士がコミュニケーションをとり、交流につながることを大切にしている。

区社協職員から地域懇談会の目的、小地域福祉活動の歴史、居場所・集いの場の重要性やボランティアの役割、区社協から気になる方を居場所につないだ

事例などを報告しました。また、区社協内の事前打合せでまとめた鷹合地域の強み(素敵なところ)や特徴等を地域担当職員から発表しました。

その後、2グループに分かれ、食事サービスやふれあい喫茶、親子サロン、虹の会(健康講座・歌・体操等)、ふれあいクラブ(折り紙・映画会・百歳体操)等を

テーマに、それぞれの活動について①活動の現状②良かったこと・工夫していること③気になること・困りごと④これから取り組んでみたいことを話し合いました。

進行・書記は区社協職員が担い、全体共有での発表は地域の活動者がおこないました。

鷹合地域 ふれあい喫茶 (当日の記録に基づき整理)	
①活動の現状 <ul style="list-style-type: none"> ● 第4水曜日 13時～15時開催 ● 女性部で運営している。 ● 女性部一人ひとりが声かけし、新規ボランティアが12名ほど増えた。 ● メニューが豊富で、夏は手作りの抹茶プリン・ごまプリン・ミックスジュースを提供している。 ● 前日から仕込むぜんざいが1年を通して人気である。 	②良かったこと・工夫していること <ul style="list-style-type: none"> ● 新規ボランティアが増えたので、活動者も喫茶の場も活気づいている。 ● 60～70歳代の活動者が活躍できる場になっている。 ● カウンター式の席を設け、一人でも来ても気兼ねなく座れる席を用意している。 ● 活動者が楽しく活動することを大切にしている。喫茶の良い雰囲気につながっている。 ● 学校の休み期間には活動者の娘が孫を連れて遊びにくる。3世代が集まってこの場を盛り上げてくれている。 ● 5回参加すると次の1品が無料となるお楽しみ券を作り、また来なくなる工夫をしている。
③気になること・困りごと <ul style="list-style-type: none"> ● もっとたくさんの方に来てもらえたらと思う。 ● 新規ボランティアが慣れるまでは、バタバタすると思う。 	④これから取り組んでみたいこと <ul style="list-style-type: none"> ● 40歳代の若いボランティアを増やして次世代につなぎつつ、今の60～70歳代の活動者には細く長く楽しみながら活動を続けてほしい。 ● 親子サロン参加者に周知し、若い世代の方々にも気軽に参加してもらいたい。 ● 手品や楽器演奏などを取り入れ、喫茶に来る楽しみを増やして参加者に喜んでもらいたい。

社協で働く私の仕事⑤



社会福祉協議会（略称：社協）は、社会福祉法に位置づけられた「地域福祉の推進」を目的とした民間団体です。

住民や地域団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、NPO、企業などと連携し、互いにつながり、支え合い、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、さまざまな活動を展開しています。

具体的には地域福祉活動の立上げから継続の支援、ボランティアの育成や需給調整、関係団体のネットワークづくり、生活にお困りの方への相談支援など、その役割は多岐にわたります。

そんな社協についてわかりやすく伝えられるよう、入職2年目〜5年目の若手職員に社協として担当している仕事やそこに込める思いを聞きました。



〈岡田地域支援担当主事〉

―具体的な仕事内容を教えてください。

地域支援担当では地域に向くことが多く、地域行事に参加して地域住民とのつながりづくりや、活動するうえで相談対応のほか、ボランティアに来てほしい施設や団体と活動したい方をつなぐボランティアコーディネーターも担っています。多機関と連携してつくり上げる活動や、区社協が事務局機能を担っている会議などでは運営もおこなっています。

―普段どのような思いで仕事をしていますか。

地域支援を担当して3年目となり、決められたことをそのまま行うのではなく、取組みの目的や多機関との連携を意識して取り組んでいます。

さまざまな場面で何かを伝えることが多くあるなか、その時々を対象者にあわせた説明が求められる難しさもあります。つつい専門用語を使ってしまい、配慮が足りなかったなど反省することもありますが、多くの

入職
3年目



岡田 唯奈
港区社会福祉協議会
令和4年4月入職 地域支援担当

方と接する機会が多いからこそどのように説明するか、どこまでお伝えできるかを慎重に考えて、取り組んでいます。

―やりがいを感じたエピソードを教えてください。

保育園から「お楽しみ会を盛り上げてくれるボランティアに来てほしい」と相談を受け、区内で活動している人形劇のボラ



▲こどもと笑顔で交流するボランティア

ンティアグループとのマッチングをおこなった際に、双方の笑顔が見られた瞬間がとても印象に残っています。

こどもたちが笑顔で人形に触れ、その様子を見たボランティアも笑顔になっていくのを見て、ボランティア活動を通して、関わるみんなが素敵な時間を共有できた瞬間で、そこに立ち合えた時にボランティアコーディネーターとしてやりがいを感じました。

〈久保生活支援コーディネーター〉

―具体的な仕事内容を教えてください。

生活支援コーディネーターは、高齢者が地域でいつまでも元気に暮らすことのできるよう、地域住民や専門職とつながりを持ち、高齢者を

支える助けあいの仕組みづくりや、高齢者が参加できる場づくりや情報発信などをおこなっています。地域住民を対象としたLINE講座では定員を超える応募があり、受講者からの「もっと多くの人が受講できるようにしてほしい」「スキ

ルアップしていきたい」という声を受け、受講者がボランティアとして活動し、活躍できる場づくりをすすめています。

―普段どのような思いで仕事をしていますか。

社協職員として4年目となり、社協組織の一員として業務をおこなうことを意識し、とにかくやってみるといふ姿勢で取り組んでいます。異動を経験して職員間の連携の重要性を感じたため、ほかの職員の業務内容や事業を把握することを意識し、内部での連携を心がけています。

―どのような時にやりがいを感じますか。

一年目は、先輩職員についていくことで精一杯でしたが、地域に足を運び、コミュニケーションを重ねるなかで、自分が

入職
4年目



久保 奈津未
此花区社会福祉協議会
令和3年4月 入職 地域支援担当
令和4年4月 第1層生活支援コーディネーター



▲モルックをテーマとした介護予防の場

取り組みたいことやできることを見つけてことができ、社協職員として関わる意味や目的を考えるようになりました。今では、自分の意見や考えを自由に出し、取り組みたいことに挑戦できることにやりがいを感じています。

〈大西包括支援担当主事〉

―具体的な仕事内容を教えてください。

地域包括支援センターは高齢者の総合相談窓口として、介護や福祉に関するさまざまな相談を本人や家族・地域住民などから受けています。困りごとをどのように解決していくのか一緒に考え、適切な介護サービスや制度、関係機関につなげるなどの支援をしています。区の地



入職
3年目

大西 真歩子

大正区社会福祉協議会

令和4年4月 入職 地域包括支援センター

域包括支援センターの広報紙作成や、地域の方と高齢者が交流できる場である認知症カフェの運営も担当しています。

―普段どのような思いで仕事をしていますか。

さまざまな方と接する仕事なのでこちらが意図していない受け取り方をされる場合もあるため、伝え方や関わり方など悩むことも多いですが、上司や先輩職員、関係機関の方々から教わるなかで、自分自身の知識や経験、引き出しを増やし、より良い支援に向けて、自分自身の力を活かしたいという前向きな気持ちで働いています。

―どのような時にやりがいを感じますか。

個別の相談支援の業務になるため、相談者からの「相談してよかった。ありがとう」と伝えてもらえた時や、相談で来所



▲認知症カフェの様子

よ」と言ってもらえた時は私もうれしい気持ちになりました。

された時はどこかしんどさを抱えていた本人や家族が、私たちが関わることによって、イキイキとした表情に変わっていく様子を見ることができた瞬間です。「一日テレビを見るだけで楽しいことが何もない」と言われていた方が、サービスを利用するようになり、「いまでは楽しく過ごせている

〈植岡総務課主事〉

―具体的な仕事内容を教えてください。

私が総務課で主に担当しているのが、職員が働いている状況を管理する労務管理や大阪市社協としての広報情報発信、理事会・評議員会など組織の重要な意思決定の場に携わったり、長年、地域福祉の推進に貢献してきた人を称える表彰など、業務は多岐にわたります。

―普段どのような思いで仕事をしていますか。

入職直後は勤怠管理のことや就業規則など大学では学んできていない内容ばかりで、不安と戸惑いもありましたが、どの配属であっても、最初は慣れないことや分からないことが多くて当然ということに気づきました。周りから多くの知識・経験を吸収する姿勢を大切に1年間

駆け抜けてきましたが、いままその姿勢を大切に組み込んでいきます。

―どのような時にやりがいを感じますか。

私一人の力で完結できる業務はないため、業務を進めていくためには所属内はもちろん、別の課や区社協職員の協力が必要であるため、業務を通じて皆さんの支えを実感しています。業務を通じて、新たな視点・価値観で社協の活動を見



▲市・区社協の概要について説明

入職
2年目



植岡 大登

大阪市社会福祉協議会

令和5年4月 入職 総務課

観で社協の活動を見ることもあります。暮らした地域を支える社協職員・組織を支えるという立場として、間接的に地域福祉の推進に貢献できているという視点に立つことができたのは、皆さんのサポートのおかげだと思っています。

能登半島地震 職員派遣報告会

本誌では令和6年3月号～8月号に1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」における石川県志賀町・七尾市災害ボランティアセンター（以下、災害VC）に派遣した職員が現地を感じたことを掲載してきました。今号では、8月21日に開催した市・区社協職員向け能登半島地震職員派遣報告会（オンライン）での登壇職員が報告した内容を紹介します。

被災地派遣での 経験を共有

当日は、職員約200人の参加があり、被災地派遣で石川県志賀町と七尾市に派遣した職員5人から報告がありました。派遣前の思い、活動を通じての気づき、今回の派遣で得たことや感じた課題などの報告がありました。



2クール
(1月28日～2月3日)
城東区社協
地域支援担当係長
木下 掌悟
(主な担当)
ニーズ調査やマッチング

市社協としては1人目の派遣だったため、いかに情報を持ち帰るかや地元社協職員の負担をいかに軽減できるかという思いで現地に行きました。志賀町災害VCへのアクセスルートが限られていた問題や軽トラック・ボランティア送迎者の不足、個々にボランティアを受け入れる仕組みがなかったこと等の課題がありました。



12クール
(3月8日～14日)
生野区社協
地域支援担当
末延 迅人
(主な担当)
マッチング

災害ボランティアのなかには自身も被災しているにもかかわらず「お互いさま」の精神で活動している方もおり、助け助けられの関係の大切さに気づきました。今後としては、企業・団体からの支援で救われた場面もありましたので、自区のエ企業・団体と普段からつながりをつくっていきます。



30クール
(5月19日～25日)
西成区社協
地域支援担当
橋口 風伍
(主な担当)
クールリーダー、七尾市社協・七尾市との調整、次クールとの調整

私はクールリーダーとして入り、今回の派遣を通して、平時の社協のあり方が災害時に影響するということ気づきと教訓を得ることができました。また、災害時にも行政とスムーズに連携できるようにしていきたいと思えます。

今後、社協の存在と意義を地域へ伝え、社協のファンを増やすことが必要だと感じましたので、普段の活動から取り組んでいきます。



37クール
(6月16日～22日)
大正区社協
地域支援担当
石川 翔太
(主な担当)
災害廃棄物仮置き場の運営

私の担当業務では、危険物の処理の他、場内にトラックの出入りも多く、ケガや事故の心配が常であり、ボランティアの方への注意喚起や見守りに特に注意を払って、活動するようにしていました。今回の派遣を通して、災害VCの運営を実際に経験できたことで、自区での災害VCの研修・設置訓練等に活かしたいと思えます。



39クール
(6月24日～30日)
※近畿ブロックとして最終クール
淀川区社協
見守り支援ネットワークカー
工藤 優作
(主な担当)
オリエンテーション、本部対応、車輦マッチング

今回の派遣を通して、ICTツールやバイディコム（スマホ型トランシーバー）等の機器を活用することで、業務・情報共有の効率化ができることを学べました。この経験を活かし、自区でも取り入れていきたいと思えます。

また、各区社協の報告を聞いて、災害時に備えることの重要性も再認識することができました。この報告を参考に職員全体

で災害VCについて考えていきたいと思えます。

各区社協の各拠点で、派遣者の報告を聞いた後、災害時に備えて今後どのように取り組むかの検討をおこない、その内容について全体で共有しました。

そこでは、「災害VCを効率よく運営するためには、ICT等を使いこなす必要があるため、普段から職員が使い慣れるようにする」「災害が発生したらどう動くか、各部門で止めることができず業務は何か等、法人全体で災害時に備えて考えておく必要がある」と改めて思った。今後も研修等を通じて、市・区社協の防災の取組みに活かしつつ、被災地支援としては、輪島市へのボランティアバス（9月6日～8日、13～15日）の運行を予定しており、息の長い支援をしていきたいと考えています。



▲9月に活動を予定している輪島市災害VC

地域コミュニティの活性化から 安心した暮らしの実現へ

第1回すまいる広場in高見



**世代を問わずお互いに
気にかけて支え合える
関係をめざして**

8月9日午前11時から午後3時に、此花区高見地域のコーシャハイツ高見38集会所で「第1回すまいる広場in高見」が開催されました。この取組みは大阪市住宅供給公社が主催となり、高見地域活動協議会も共催し、さらに区社協・区役所も協力して、実施されたものです。



▲主催・共催・協力団体のみなさん

同公社と市社協は令和2年3月19日に、地域のさまざまな課題に対して相互協力し、地域福祉の推進と市民生活の安定を図ることを目的として、包括連携協定を締結しており、この協定もふまえて同公社と、各区社協の協働による取組みが推進されています。

市営住宅を含む 地域コミュニティの 活性化を促進

今回の取組みは、子ども・高齢者など年代問わず通える場や地域住民同士がつながることができ、子ども・若者の地域活動への参加が少ないことについて、企画に携わったメンバーが課題を感じていたことから開催に至りました。

当日は、地域による喫茶や防災教室、区社協登録ボランティア団体によるバルーンアート、子育て・介護・見守りなどの相談コーナーも設けられました。

区社協の前田晴美地域支援担当主事は、「地域のボランティアの方の協力が大きく、このような形で開催することができま

した。夏休みということもあり、小中学生の参加もあり、自然な流れで世代間交流が図れるよい機会となりました」と話しました。

また、辻としみ地域支援担当係長は、「今後も、包括連携協定のもと、本事業の継続開催や他地域でも協働して何かできるような、地域や関係機関と検討を進めていきたいと思えます」と話しました。

参加者・運営者の声

- 定期的にこのようなイベントがあるとうれしいです (参加者)
- 地域の皆さまが集えるステキなイベントだと思います (参加者)
- 集会所を利用したことで初めて地域活動に参加された方と新たに繋がりました (運営者)



▲未就学児から高齢者まで世代を問わず交流しました

風をよむ

持続可能な民生委員・ 児童委員制度に向けて

大阪公立大学大学院生活科学研究科 講師 山東 愛美

地域住民にとって身近な相談相手となる民生委員・児童委員（以下、民生委員とする）。100年以上の歴史ある制度が、今、岐路に立っている。

2024年6月28日、「第1回民生委員・児童委員の選任要件に関する検討会」が開催された。厚生労働省の資料*によると、2023年3月末時点で全国の民生委員数は227,426人であり、定数の240,547人を満たしていない。こうした現状を踏まえ、現行の居住要件を緩和し、その市区町村に住んでいない在勤者や過去に一定期間居住していた元住民等も民生委員として選任できるようにするかどうかの議論が進められている。検討会は引き続き開催されており、結論は年内にとりまとめられる予定である。

では、単に居住要件を緩和すれば担い手不足は解消するのだろうか。現代社会は、少子高齢化、共働き世代や働く高齢者の増加、家

族の多様化、住まい方の変化、地縁の希薄化等によって、地域における支え合いの活動を継続することが難しくなっている。つまり、担い手不足の根源には、社会構造上の大きな問題が存在しているのである。こうした複合的な要因を踏まえた議論をしなければ、将来的には民生委員制度そのものが維持できなくなる可能性がある。

この原稿を書きながら、私が社協で働いていた頃にお世話になった民生委員の方々が、暑い日も寒い日も、夜間や休日であっても、熱心に活動されていた姿を思い出している。少子高齢化や核家族化によって地域での見守りが必要な高齢者等は増えており、民生委員の存在は不可欠である。今日まで民生委員として地域を支えている方々の声を大切にしながら、現代社会における持続可能な民生委員制度のあり方を検討することが求められている。

*厚生労働省「【第1回民生委員・児童委員の選任要件に関する検討会】検討の範囲や論点等について」<https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/001268643.pdf>

大阪市社会福祉大会 講演会

参加者
募集!

参加費
無料!

令和6年

日程

10月18日(金) 14:50~16:00

※講演前に式典(14:00~)を開催しますので、開始時間が多少前後します。

場所

大阪国際交流センター 大ホール

大阪市天王寺区上本町8-2-6

近鉄線「大阪上本町」駅14番出口から徒歩6分、地下鉄「谷町九丁目」駅10番出口から徒歩8分

「誰一人取り残すことのない社会をつくる」

講師としてお迎えする湯浅誠氏は、「誰も取りこぼさない共生社会の実現」に向けて、こども食堂への支援を通して活動している「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」の理事長を務めるほか、社会活動家として、ホームレス支援や子ども食堂等、「格差・貧困」「人とのつながり」と向き合う活動を20年以上にわたり全国各地で続けておられます。

多様な生きづらさに向き合い、「誰一人取り残すことのない社会」をつくっていくために私たちにできることは何か、考えるきっかけとなるような講演内容をこれまでのご経験をもとにお話いただきます。



社会活動家/
全国こども食堂支援センター・
むすびえ理事長

湯浅 誠氏

申込方法

本会ホームページ申込フォーム▶
または TEL 06-6765-5601



申込締切

10月16日(水)

問合せ

大阪市社会福祉協議会 総務課 TEL 06-6765-5601

大阪府共同募金会からのお知らせ

①令和6年度NHK歳末たすけあい特別助成申請受付



年末・年始の時期に特有な福祉ニーズや生活困難者等のニーズに応える事業に対する助成申請を受付けています。

申し込み受付期間

令和6年9月30日(月)まで(必着)

②寄付金助成施設などの訪問

～あなたの寄付金が役立てられているところを訪問しませんか～

大阪府共同募金会では、毎年、役員・評議員等で構成する調査指導部会の活動として、助成を受けた社会福祉協議会、社会福祉施設・団体を訪問し、共同募金の活用状況の調査、住民への公表等の指導を行っています。赤い羽根データベース「はねっと」で大阪を含めた全国の助成事業をご紹介しますが、寄付者である府民のみならずにもっと共同募金が身近で役立っていることを知っていただこうと、この調査指導部会の活動に同行参加される方を募集しています。

申し込み受付期間

令和6年9月30日(月)まで(必着)

①②とも、詳しくは、大阪府共同募金会ホームページ

赤い羽根おおさが

<http://www.akaihane-osaka.or.jp>をご覧ください。

大阪府共同募金会

TEL :06-6762-8717 FAX:06-6762-8718

Eメール: ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp

問合せ

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK



www.ms-ins.com